

がん治療と仕事の  
両立支援セミナー

従業員ががんになったら、  
治療は？雇用は？

## 働き続けるためにできること

### 報告書

NPO法人キャンサーリボンズ

2018年11月

# 実施概要

本セミナーは、がん治療と仕事の両立に関する理解促進を目的として、NPO法人キャンサーリボンズが企画し、岐阜県図書館と共同・実施しました。

■名 称 がん治療と仕事の両立支援セミナー  
「従業員ががんになったら、治療は？雇用は？働き続けるためにできること」

■日 時 2018年11月14日(水) 14:00～16:00(受付開始 /13:30)

■会 場 岐阜県図書館 研修室1・2 (岐阜県岐阜市宇佐4-2-1)

■参加者数 【 50名 】

<参加者内訳>

一般(経営者、企業人事・労務担当者、産業保健関係者、後援団体など)	39名
講師	3名
主催者 (岐阜県図書館 4名、NPO 4名)	8名

■主 催 NPO法人キャンサーリボンズ、岐阜県図書館

■後 援 国立大学法人岐阜大学医学部附属病院、岐阜労働局、岐阜県地域両立支援推進チーム、岐阜県商工会連合会、岐阜県中小企業団体中央会、岐阜産業保健総合支援センター、公益財団法人岐阜県産業経済振興センター、公益社団法人岐阜県労働基準協会連合会、岐阜県商工会議所連合会、岐阜商工会議所、一般社団法人岐阜県経営者協会、一般社団法人日本産業カウンセラー協会 中部支部、特定非営利活動法人日本キャリア開発

# 実施概要

## <プログラム>

(一部敬称略)

### ■開会挨拶

NPO法人キャンサーリボンズ副理事長 岡山慶子

NPO法人キャンサーリボンズ副理事長 岡山慶子さんより  
開催目的とNPOの活動紹介がありました。



### ■主催者挨拶

岐阜県図書館 館長 鍋島 寿

開会挨拶に続き、岐阜県図書館 館長 鍋島寿さんより  
ご挨拶いただきました。



### 【講演】

#### ■がん治療と仕事の両立を可能にする、がん医療最新事情

岐阜大学医学部腫瘍外科 講師 田中 善宏

消化器がんの予防と治療法を中心にご講演くださいました。

がん医療の進歩により治療成績が向上し生存率がアップ、外来通院で化学療法や放射線治療を受けながら仕事に就く患者さんが増加しており、治療と仕事の両立支援の必要性は高くなっている。がん患者さんの治療状況、副作用、社会的背景など個別性を理解した上で、両立支援を行うことが重要とのことでした。

講演後には、会場からの制度に関する質疑もありました。



### 【企業事例】

#### ■日本ガイシ健康保険組合 常務理事 伊藤 嘉典

がん・生活習慣病予防を最優先とした日本ガイシ健康保健組合の  
保健事業についてお話いただきました。

会社による情報提供・相談体制・意識向上に加え、短時間勤務や  
週3日勤務など両立支援制度の拡充や、会社・労組・健保による  
コラボヘルス体制のご紹介もありました。

講演後には、会場から制度に関する質疑がありました。



# 実施概要

(敬称略)

## 【会場の皆様とのディスカッション】

### ■ファシリテーター NPO法人キャンサーリボنز副理事長 岡山慶子

参加者各自のお立場で、両立支援についてどのように思われているか4~6名ずつのグループごとに話し合い、会場シェアしました。

制度が整っている職場はまだ少なく、まずはトップや社員が、がんについて理解する風土づくりや雰囲気的大事との声が上がりました。

企業の制度改革も必要だが、今ある制度の周知徹底や、がんをオープンにするなど患者本人にもできる事がある、との意見もありました。



(ディスカッションでの意見)

- ・院内にも相談できる場所があるが、周知が徹底されていないためか相談者が来ない
- ・健診結果の把握が難しい
- ・再検査に行かない社員が多い
- ・がんは個別性が高いことを理解している経営者がいると安心
- ・トップの理解が大事
- ・周囲の理解も大事
- ・企業によってがん患者への理解度が違う
- ・患者本人が、がんをオープンにすることも大事
- ・大企業でもまだ制度が整っていない状況。だが、時短など勤務時間で対応できることもある
- ・トップダウンで決めるのが一番良いが、それではトップ次第になってしまう。  
厚労省（健保組合と会社の連携を指導している）と経産省（健康的経営を指導している）によるデータヘルスの取組みを活用して、省庁から各企業のトップに指導する国の施策で進めてほしい、との意見がでました。

### ■講師コメント

#### 岐阜大学医学部腫瘍外科 講師 田中 善宏さん

働く喜びがあれば仕事は続けた方が良くと思う。オープンにする内容は選びながら、病気はあっても堂々とすればよい。

病気により容貌が変わると、オープンにするかどうか選択の余地はない。周りの人は、特に乳がん患者さんのアピランスケアには配慮してほしい。



#### 日本ガイシ健康保険組合 常務理事 伊藤 嘉典さん

講演会を受講することは健診面でも非常に意義がある。本人にしか分からない「心に刺さる言葉」を受け止めた人は、健診以外の検査を受けるなど、行動に移しているようだ。

相談が少ない、との意見が先ほど上がったが、病気のことは人事を仕切っている部署には話しづらい面がある。

「病気になっても差別なく働ける」ということが従業員に伝われば、相談が増えることにつながる。それが一番大事だと思う。

